

大草谷津田いきものの里 自然観察会

ウグイスのさえずりを聴こう！

芳我 めぐみ（千葉市）

日 時：2013年3月3日(日)10時30分～12時

天 候：曇りがちの晴れ

参加者：23名（大人18名 子ども5名）

担当指導員：藤田英忠・芳我めぐみ



観察会当日は比較的穏やかな日和だが気温は低め。

大草ではさえずりを聞くのは今年もむずかしい？ の気持ちを懐きつつ観察会を開始する。藤田さんから「春とウグイス」について説明。その内容は日長時間が長くなると生殖腺刺激ホルモンが分泌され繁殖欲が出てきて、オスはメスを欲しがらる。巣を作りたくなる、抱卵したくなるテリトリー管理の宣言。これが「ホー ホケキョ」のさえずりである。藤田さんが住んでいた新潟県では鳥の繁殖に適した豊かな自然があるので、アカハラ・クロツグミ・アオジ … それは美しい声でさえずるそう。聞いているだけで羨ましい！ しかしその鳥たちも冬を無事過ごせる暖かい千葉のような場所があってこそと、縁の下の力持ちを自負しよう？ 子どもたちが藤田さん持参の鳥を寄せる（バードコーリング）鳥笛に興味津々。実際手に取って鳴らすとカモの声だったり、異国の（外国で買って来たから）鳥の声だったり。

説明を終え出発する。杉林の道に鳥の羽根が散乱していた。オオタカが何かを襲った食痕だ。羽根だけが散らばっている。捕えた獲物の羽根だけを抜き本体は別の場所で食べるオオタカの特徴がよく表れている、と藤田さんの説明。人数がさえずりを聴くには多すぎるので、めじろんばから二手に分かれた。右に曲がって下ノ畑から谷津田に下るコースを私が受け持った。ウグイスの聞きなしを、昔は「ウーグイ」と聞いていたものを、仏教関係者が「ホー ホケキョ」と法華経になぞらえて広めたと書いてあった話をする。参加者のSさんが固定観念のない小さな子どもになんて聞こえたか聞いてみたいね、などと返す。ルリビタキ・ウソはおろか定番のシジュウカラ・エナガ・コゲラも鳴いてくれない。出会いだから仕方がないよ、と参加者の方たちから逆に慰められてしまった。さえずりどころか、この日はウグイスの地鳴きすら聞かれなかった。階段を下りる途中、聞き慣れない声に胸躍らせて谷津田に急ぐ。声の主はセグロセキレイ。さえずりの声だ。セグロセキレイは冬のうちからペアになっている。やっと望遠鏡が役に立ち、観察をする。

東邦大田んぼのニホンアカガエルの卵塊からは、オタマジャクシが孵化していた。小さなその姿に応援したくなる。今年は産卵数が少し回復した。注意深く、今後も見守りたい。

観察会終了間際、上空にノスリ、その又上空にオオタカの姿が望めた。ウグイスのさえずりは聞こえなかったが、明らかに春の気配を感じた。ニワトコの芽吹き、タチツボスミレの花、子どもが見てくれと呼びに来たオオイヌノフグリの花。

大草の住人から「初音」の報告があったのは一週間後。

下見と観察会で確認した鳥の「鳥合わせ」は次の通り：

オオタカ ノスリ キジバト コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
シロハラ ツグミ シジュウカラ ハシブトガラス ヒガラ ヤマガラ